



▼ブラジルでは綿花づくりをした県出身者もいた(昭和9年)「大琉球写真帖」より

「移民」として出発する人々の見送り風景(那覇港、大正10年頃)

ちよつと百年前の一九〇八(明治四一)年、沖縄からはじめてのブラジル移民三二五人がサントス港に降り立ちました。その中には、旧那覇出身者八人(男七・女一)、真和志村出身五人(男四・女一)、小禄村出身一人(男)が含まれていました。ブラジル側から「家族移民」という条件がついていましたので、ほとんどがコーヒー園で働く、家族農業契約移民だったので。

ところが、当初はさまざまな悲劇やトラブルが起こったといえます。第一回の移民から三年間募集が途絶えたり、日本移民のなかで沖縄移民への差別が起こり、大正末期には、普通語(日本語)を話し、手の甲のイレズミ(ハジチ)のない者などの条件が付されて沖縄移民が認められるというところもありました。

また、去る太平洋戦争終結後は、県人の中でも、日本の戦勝を信ずる「勝組」と負けたことを知った「負組」が対立しましたが、それでもわずか10%の「負組」によって沖縄への救援活動が続いたといえます。

そのような厳しい歴史に直面しながらも、沖縄県人は各界でさまざまな活躍を見せました。サンビセンテ市長を務めた伊波興裕氏もその一人で、一九七八年に那覇市との姉妹都市協定が締結されたのも、伊波市長からの強い要請によるものでした。

【参考文献】 沖縄県教育委員会 『沖縄県史7 移民編』 在伯沖縄県人会 『ブラジル沖縄移民誌』 那覇市歴史博物館 パレットくもじ4階 ☎869-5266

ブラジル移民百周年!! シリーズ特別編

那覇市歴史博物館 那覇の歴史・文化を体感!

慰霊の日を前に、開発の進む真嘉比地区で、市と沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」が連携し、復帰後、市では市民参加型としては初となる遺骨収集作業が6月22日(日)、真嘉比の大道森で行われました。



戦後63年。悲しみは癒えず ~真嘉比地区・市民参加型遺骨収集~

市内の中学生が、相互に交流し友情を深めながら「生徒の居場所づくり」を積極的に進めることを目的に7月5日(土)、市民会館中ホールで、「第3回やる気・元気フェスティバル in なは」が開催されました。



イキイキとした姿に歓声 ~第3回やる気・元気フェスティバル~

中学生が、日頃から身の回りや社会のことで感じていることを中学生らしい自由な発想で発表する「那覇少年の主張大会」が7月5日(土)、市教育委員会3階ホールで開催されました。今年の大会には、市内14の中学校から代表22名が参加し、多くの関係者の前で熱弁をふるいました。



中学生が日頃の思いを熱弁!! ~第27回「那覇市少年の主張大会」開催~

その後、高嶺教授のほかに、3人のパネリストを迎え、障がいをもった人が、沖縄での観光をどのようにしたら満喫できるかなど、今後の取り組みについて話し合われました。



どこでもだれでも楽しめる沖縄を目指して ~バリアフリー観光の推進を考える講演会・シンポジウム開催~

ニュース・ダイジェストNANAHA

あなたのお家はだいじょうぶ? 日頃から電気安全を心がけましょう

8月は電気使用安全月間です。

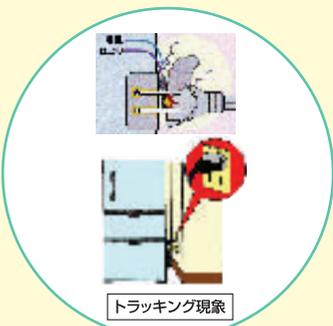


タコ足配線はやめましょう

一般のご家庭では、過剰な電流が流れると、分電盤のヒューズやブレーカーが作動して安全を保つようになっていますが、このタコ足配線は、テーブルタップにいくつもの電気器具をつないで使用した場合に、テーブルタップに負担がかかり、発熱し、ついには燃え出す危険性があります。

差し込んだままのプラグは時々ホコリを払いましょう

長期間コンセントにプラグを差し込んだままにしておくと、コンセントの周りにホコリがたまり、そのホコリが湿気をおびて、プラグの刃の間にわずかな放電が起き、プラグが突然発火することを、トラッキング現象といいます。冷蔵庫の裏や家具の裏などのコンセントに長時間差し込んだままのプラグは、時々コンセントから抜いて、乾いた布でホコリを拭き取りましょう。



財団法人 沖縄電気保安協会

〒900-0036 那覇市西三丁目8番21号 TEL:098-866-4946(代) FAX:098-867-3235 http://www.odhk.jp/